

八王子市 成功要因

事業を通して仮説を検証することにより効果的な戦略を策定し、今後の取り組みに繋げていく



東京都八王子市

健康福祉部 地域医療推進課 課長補佐兼主査

菅野匡彦 氏

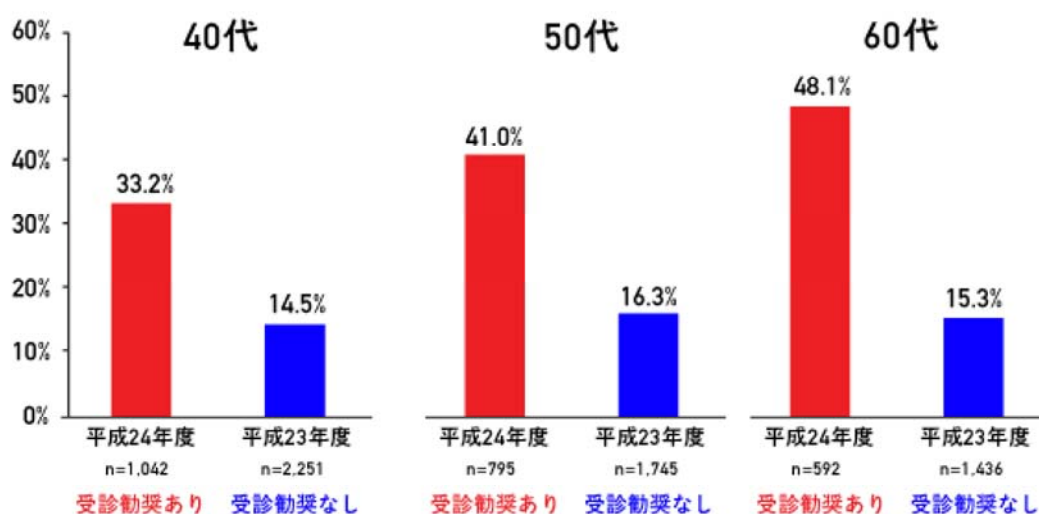
八王子市では、平成22年度から平成24年度の3年間にわたって、東京都の「医療保健政策区市町村包括補助事業」を活用し「がん検診受診率向上事業」を実施しました。科学的根拠に基づいた「有効ながん検診を、より確かな質で、より多くの人に」受けていただくことを目指しています。

がん検診の目的は、死亡率の減少、つまりがんによる「早すぎる死」を防ぐことです。但し、受診率の向上に際しては、やみくもに受診者の増加を求めると財政・精度管理・医療機関のキャパシティに悪影響をもたらすばかりでなく、受診者に不利益をもたらしてしまう可能性も高まるため、適切な戦略に基づくアプローチと、効果検証というプロセスが重要であると私たちは考えました。

そこで、本市の事業においては、マーケティングの手法を活用することとし、まず初年度に市民8,000人を対象に“がん予防、がん検診に対する意識調査”を実施しました。その意識調査によって、性別・年代や、過去の受診歴などに応じたがん検診に対する意識の違いや、受診へのバリアーを明らかにし、どういった層にどのような受診勧奨手法、またはメッセージが効くのか仮説を立てました。その仮説を基に、平成23年度・24年度においては個別受診勧奨・再勧奨事業を様々な形で実施しています。

例えば、意識調査によると「検診を受けたことがあるが継続受診していない層」が一定数存在しました。がん検診の一番の未受診理由は「(家事、育児、介護、仕事等で忙しい)ですが、この「継続受診していない層」は、過去にがん検診を受診したことがある人たちであり、一度も受診したことのない層よりも検診に対する意識は高く受診勧奨の効果も高いと考えられます。そこで、八王子市では乳がん検診の受診勧奨として、2年前無料クーポン受診者を対象に、彼らを継続受診へ導くアプローチとして、継続受診の重要性を伝えた個別受診勧奨を実施しました。その結果、受診勧奨を実施しなかった平成23年度(受診率15.3%)と比べ、受診勧奨を行った対象者の受診率は39.4%と、+24.1%もの受診率の向上を果たしました。また、年代が高まるほど、受診勧奨による受診率向上効果が見られるという傾向も明らかになっています。

受診勧奨実施の有無による 乳がん検診受診率比較



年代が高まるほど
受診勧奨による受診率向上効果が見られた。

受診率50%を達成するためには、新規の受診者を獲得しつつ、継続して受診していただく必要があります。具体的には、多くのがん検診が始まる40歳で受診のキッカケとなる勧奨を行い、その後は適切な間隔での受診の時期が到来していることをお知らせする勧奨を行うことがポイントと考えています。

八王子市では、他にも異なるがん種や様々な対象者に向けて、仮説に基づいたメッセージを開発し個別受診勧奨・再勧奨を行っています。その効果の確認を通して仮説の検証を行い、より効果的な戦略を策定し、今後の事業に繋げていくことが、受診率50%を達成するための長期的な取り組みとして必要なのではないのでしょうか。

*八王子市のH22年度個別受診勧奨及び意識調査事業は、東京都における医療保健政策区市町村包括補助事業「がん検診受診率向上事業」にて実施しました